

(1) 確かな学力**【結果】**

「1. 基礎学力が身についている」については、生徒自身が授業の中で「わかる」と実感している総数は7月評価より5ポイント上昇し全体で約78%でした。とくに2, 3年生での増加の割合が顕著でした。

「2. 授業で満足感や達成感を持っている」についても「1.」と同様に7月評価より7ポイント上昇し全体で約78%になっています。

「3. 先生は学習の効果を上げるために工夫・努力している」については、生徒全体では7月評価より3ポイント上昇し約86%が肯定的に答えています。

「4. 家庭学習の習慣化」については7月評価より4ポイント上昇し、7月評価と同様、学年が上がるごとに肯定的な回答が増加する傾向を示しています。

本校が取り組んでいる「朝の読書」に関連する項目の「5. 読書の習慣が身についている」については学年によって差が見受けられるものの、生徒全体では7月評価とほとんど変わらず、約64%が肯定的に答えていました。

【考察】

「1. 基礎学力が身についている」と「2. 授業で満足感や達成感を持っている」の結果をみると、12月評価で肯定的な答えが増えています。これについては本校が現在進めている「協働的な学び」を深めるための授業改善の取り組みが関係しているところもあると考えます。これからも授業のめあてと振り返りをしっかりと行い、「わかる＝できた」と感じられる生徒の立場に立った「確かな学力」を高める授業展開を目指す必要を感じます。

「4. 家庭学習の習慣化」については学年が上がるにしたがい家庭学習の習慣が定着しています。家庭学習の習慣化は、確かな学力を身につけるために必要な条件といえます。そのためにも週末課題を本校では生徒に課しています。このことが「1. 基礎学力が身についている」と「2. 授業で満足感や達成感を持っている」の肯定的な回答にも反映していると考えます。

今後も授業の研究を推し進めて、生徒が本当に理解できるような授業を展開し、それを定着させる家庭学習の習慣を身につけさせ、生徒自身が学習の主体者として取り組む姿勢が上昇していくような指導していきます。

最後に、「5. 読書の習慣が身についている」という生徒の数は7月と12月評価で比べて大きな変化は見られないのですが、昨年度より増加していました。ただ生徒の読書に対する姿勢はまだまだ主体的に読書を親しむようには感じられません。学校で行う「朝読書」のように決められた時間の読書から、自らが「本を読むことが楽しい」と感じられるように成長してほしいと期待しています。

（２）豊かな心・健やかな体

【結果】

「１．進んで挨拶をしている」については７月評価より３ポイント下降し、生徒全体で約８９％の生徒が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。それに反して教職員は７月評価より２０ポイント上昇しましたが、まだ肯定的な答えは約５８％に留まっており、差は縮まったものの認識の相違はあります。

「２．きちんとした言葉遣いをしている」については生徒全体では７月評価より２ポイント上昇したものの、上記の「挨拶」と同じ傾向が出ており、生徒全体で約８４％の生徒は「きちんとした言葉を使っている」と思っています。しかし、教職員から見ると「きちんとした言葉を使っている」と判断したものは約５４％にすぎません。

「３．学校の決まりや約束事を守っている」という項目については生徒・保護者の回答が７月評価よりそれぞれ２ポイント上昇し、９０％を超えて「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に答えています。

「４．他人を思いやり、親切にしている」については約９６％の生徒が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答しています。

「５．楽しく学校に通っている」では１年生で２ポイント上昇し約９２％、２年生で６ポイント上昇し約９２％、３年生で３ポイント上昇し約９４％が「楽しく通っている」と答えています。保護者の回答も約９２％が肯定的に受けとめています。

「６．将来の夢や希望について考えますか」については、保護者の肯定的な意見は７月評価より１６ポイント下降し約５８％と低く、生徒全体の回答は逆に９ポイント上昇して約８８％の生徒は「考えている」と答えています。

【考察】

「１．進んで挨拶をしている」と「２．きちんとした言葉遣いをしている」については、７月と同様、生徒と教職員の意識に大きな開きがあり、生徒の考えている基準が低いといえます。ちなみに保護者の見方も教職員のとらえ方に近いようです。学校では生徒会の挨拶運動のみならず、日常の中で教職員自らが「進んで挨拶」を実践し、また正しい言葉遣いの重要性を伝えていくことが生徒の豊かな人間性や社会性などを育むために必要であることを再確認して指導を進めていきます。

「４．他人を思いやり、親切にしている」については生徒・保護者の回答はともに肯定的な意見が多く、教職員も概ね似たような傾向でした。しかし、「よくできている」という回答に注目すると、生徒と保護者・教職員との間に開きが見られます。こういった部分をみるとまだ生徒の道徳性には伸びしろがあると期待されます。

このことは生徒達に道徳性が育まれていることを表していると考えます。本校でも道德教育を推進しているところではありますが、これからも学校生活を通して、豊かな心を育むとともに、コミュニケーション能力を培っていきたいと考えます。

「５．楽しく学校に通っている」については学年の差は若干あるものの約９２％の生徒の良好という回答結果については評価できます。教職員も保護者も多くはそう思っています。しかし否定的な答えは２ポイント下降したものの「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えている生徒の声にも真摯に耳を傾け、否定的にとらえている生徒の数を０％にしていくよう努力していかねばなりません。また学校の出席状況を見ても、不登校・不登校気味の生徒が少なからずいることは確かであり、適切な対応を心がけてきました。今後も適切な対応・心の通った支援を進めていく必要があります。

「6. 将来の夢や希望について考えますか」については自分の夢や希望を学校で話せる機会が増えてきていると考えられますが、家庭では大きく減少していることは会話の中に進路のことがあまりふくまれていないことが伺えます。学校でも1年生では進路学習、2年生では企業体験を1つのテーマに設定している修学旅行の事前学習、3年生では進路決定むけて取り組んでいます。今後も自己有用感・自尊感情の高い生徒の育成に力を注いでいきます。

(3) 学校・地域について

【結果】

「1. 先生に気軽に質問・相談しやすいと思いますか」の項目では、7月評価より6ポイント上昇し、87%を越える生徒が「話しやすい」「まあまあ話しやすい」と肯定的に答えています。

「2. 学校行事に積極的に参加している」の項目では、肯定的な回答は1年生については他学年に比較して若干少なくなっていますが、2, 3年生は94%を超える生徒が肯定的な回答をしています。

「3. 地域行事に積極的に参加している」の項目では肯定的な回答は7月評価より9ポイント上昇して、生徒全体で約71%となっています。

「4. 学校・学級だより、HPで学校の様子が伝わってくる」の項目では、保護者の約97%が肯定的な回答をしています。

【考察】

「1. 先生に気軽に質問・相談しやすいと思いますか」については、評価結果から生徒と教職員の関係が概ね良好と考えられます。日常の学校生活の中で教職員に積極的に質問・相談してくる生徒は比較的に自己肯定感が高く自己有用感を持っている生徒であると考えられます。しかし、全ての学年に9~18%の生徒が否定的に答えている生徒が存在していることは意識しておく必要があります。

また、学習に対しての不安や不調を抱えている生徒がこの項目と重複している可能性が高いと考えるならば「勉強がわからない」と悩みながら「質問・相談が出来ない」と感じている生徒がいることも考えられます。今後も教職員が生徒に寄り添う姿勢でいることを心がけていきます。

「3. 地域行事に積極的に参加している」という生徒の数は、7月評価と比較して20ポイント高くなっています。大原野学区は地域の行事も豊富で、生徒が積極的に参加する場面が多く見受けられるようです。地域でも活躍する大原野の子どもをともに育てていきたいです。

「4. 学校・学級だより、HPで学校の様子が伝わってくる」の項目では、保護者の約97%が肯定的にとらえていただいています。学級だより・学年だより・学校だよりやHPでの情報の発信は、生徒への情報発信のみならず、保護者・地域に学校の取り組みや教育活動への理解と信頼を深めるために必要不可欠なもので、有効な方法でもあります。保護者・地域が学校に関心を持ってもらうことは大切なことであり、その期待にも答えていかなければなりません。

回答率

7月評価	生徒 1年 100%	2年 100%	3年 99%
	保護者 64%	教職員 100%	
12月評価	生徒 1年 100%	2年 100%	3年 96%
	保護者 70%	教職員 100%	